

平成27年度第3回石狩浜海浜植物保護センター運営委員会会議録

◇日 時：平成28年3月18日（金） 10時00分～12時00分

◇会 場：花川北コミュニティセンター 会議室C

◇出 席：松島肇（会長）、安田秀子（副会長）、荒井一洋、石山優子、原田京子、北條静香

事務局：本間博人（センター長）、川村祐子（主査）

◇傍聴者：3名

◇議 題

1. 平成28年度石狩浜海浜植物保護センター事業について
2. ハマナス再生プロジェクトについて
3. 石狩浜の環境保全について
4. 石狩浜海浜植物保護センターの管理運営について
5. その他

◇議 事

【松 島】 それでは、今年度第3回目の運営委員会を開催します。まず始めに議題1の平成28年度石狩浜海浜植物保護センター事業について事務局の方から説明をお願いします。

1. 平成28年度石狩浜海浜植物保護センター事業について

【事務局】 （資料1の説明）

【本 間】 （補足説明）

外来種駆除の関係で本日欠席の内藤委員が今年の春にヒキガエルの駆除を行いたいということがありました。前回の運営委員会で連携を図るべきだという意見もありましたので、これはセンターの展示等で（他の事業と）上手く連携させながら周知していきたいと思っており、皆さんの意見も聞きながら取り組んでいきたいと考えております。それから、人材育成につきましては、案内人育成講座ということで、これについては、いしかり海辺ファンクラブさんに委託して実施する予定になっております。

【原 田】 はまなすの丘景観作業の日にちは4月の何日ですか。

【川 村】 4月23日土曜日です。

【松 島】 9番の人材育成の時期が、6～10月と書いてありますが、先ほどの説明では7月と8月となっております。

【川 村】 7月の2日、3日の土日、8月の27日、28日の土日ということでファンクラブさんと調整しております。(内容は修正します。)

【安 田】 11番でセンターの施設維持管理で照明設備をLED化というのは一斉に全部替えてしまうのですか。

【本 間】 温室以外はほとんど全部取り替えると考えております。ただ、これは環境省の補助事業なので、採択されれば取り替える予定です。以前、北條委員からも言われておりましたが、展示室が暗い状況にあります。その都度、普及員さんが電灯を点けていたのですが、それはあまりにも来館者に良くない状況なものですから、常時点ける形にしたいのですが、150wの電球を使っているので節電の関係もあり、なかなかやれない状況でした。試算ではLEDだと電力量が88%程度削減の効果があるものですから、交換して常時点灯したいと考えております。

【松 島】 オートパワーオフにはできないのですか。人感センサーみたいなもので人が入ってきたら点灯するように。

【本 間】 そこまでやるとコストがかかってしまう。

【松 島】 実は、LEDも最近、謳っているほど耐久性が無いのではないかと問題になっている。なので、実際に最初に出すコストと維持管理のコストをきちんと計算すれば元を取れていないのではないかとと思うものがあるのですが、環境省の補助事業ということでそれでいいのかな。その辺はきっと誰かがどこかで検証していただいているのではないかと思います。

【本 間】 工事費見合いで考えると、7年以上で元が取れるという状況なのですが、7年ぐらいはもってくれるのではないかなと思います。

【松 島】 ぜひ、7年持ったかどうかきちんと記録を。

【石 山】 環境省の補助は電気のみなのですか。

【本 間】 二酸化炭素の排出という形なので、暖房とかの省エネ機器も認められるのです。今までには南コミセンのボイラーをペレットボイラーに替えたというのがありますので、メニューは色々あり CO₂ 削減であれば補助があると思います。保護センターだと照明ぐらいしかないのかなと思い、LED 化で申請しております。

【安 田】 7 番で先ほどお話がありました、ヒキガエルについて具体的に時期とか方法とかは内藤委員からあるのですか。

【本 間】 多分 4 月に入ってからだと思います。本来であれば広報して市民参加型でと考えていると思うのですが、いきなりというのもあり、とりあえずは、協力していただける方で駆除してみようかなということになりました。今回の駆除結果次第で来年以降、きちんと広報して市民参加型にという方向にしたいと内藤委員は言っておりました。市も協力しながら、センターとして一緒にやればいいかなと思っております。

【安 田】 しかるべき時期が来たら、しかるべき人に案内が。

【本 間】 案内がいくと思います。

【安 田】 場所は名無し沼ですか。

【本 間】 そうだと思います。あと、はまなすの丘まで行くかどうかだと思うのですが、その辺は詳しくは聞いておりません。あと、資料館の志賀さんとも調整しながらやれるのではないかなと思います。

また、この事業計画に沿って、次年度の行事予定も作成しておりますので、出来しだい HP 等で広報しますので、ご覧になっていただければと思います。

【安 田】 6 番で、事業連携の石狩市内での館ネットワークがあるのですが、何か新年度の計画は？

【川 村】 今のところは、まだ何も予定はありません。

【安 田】 下の方は前回サイエンスフェスティバルをやったとか CISE ですか？

【川 村】 そうです。CISE ネットワークに関しましては、チカホで行ったサイエンスフ

ェスティバルを1月にまたやるということです。もうひとつ、チカホでやったことを新千歳空港でもできないかというお話がCISEネットワークに来ております。ただ、観光シーズンで皆さん忙しいので、なかなか行けないので、パネルだけでも良いということになりそうなのです。時期としては秋ぐらいを予定しているということです。海外とまでは言いませんが、道外から来られた人にもPRする機会にもなります。もちろん、行くこともできますし、その分の交通費は見てもらえると言っていたので、案内が来ましたら、ご協力お願いいたします。

【安 田】 目的は海外からの観光客への情報提供なのですか。

【川 村】 海外だけではなく、道外です。新千歳空港でやる事業に関しては、北広島や千歳の小学校にもチラシを撒いてくれるので、飛行機に乗らなくても、休みの日に遊びに来る親子にもPRできます。

【松 島】 海外にアピールするなら少なくとも英文化しないとダメですね。

【安 田】 英文のものはあるのではないですか。

【本 間】 パンフレットはあります。

【松 島】 他には、よろしいでしょうか。それでは議題2のハマナス再生プロジェクトについて事務局の方からお願いします。

2. ハマナス再生プロジェクトについて

【事務局】 (資料2の説明)

【松 島】 ありがとうございます。それでは、今のご説明について、ご質問やご意見がありましたらお願いします。

【荒 井】 こんなに色々なことができるのですね。これっていろんなチャンネル、つまり、石狩の浜をセントモニカさんに来てもらって化粧品とかアロマな生活とかに関心がある層にも広げて、石狩の浜に関わってもらうチャンネルを持っておくというのはすごく重要だと思います。自然保護業界は広い層に支援してもらえる体制を整えることが本当に難しいので、こういう形で社会にどんどん開い

ていったらいいと思います。皆に集中して、これを盛り上げようと言って、来てくれてありがとうとか、向こうが来てくれて良かったとか思ってもらえる事業の実施体制をこっち側がいかに整えるかだと思います。なので、10月15日（はまなす広場）は集中ですね、みんなで資源を投下するという気持ちでできると最終的に良い形になってくるのかなと。新しい活動をするときとか新しい顧客に対したときって、我々もわからないですから、自分のことではないと思ってしまうのですよね、本当はこのメンバーもみんなで頑張って、集客頑張るとか、そういうことをできるこっち側の問題を整えることが大切かなと思いました。

【松 島】 ありがとうございます。他にはありませんか。

【安 田】 ルール作りは早急に実行委員会でやっていただけるようにお願いしたい。

【本 間】 去年まで、再生園の整理、石狩浜の保全というところが上手く民間企業さんに伝わっていないというご指摘があったので、十分気をつけながら実施し、実行委員会の中で協議しながらやっていこうと考えておりますので、市としても注意しながら、きちんと整理しなければいけないと思っております。

【荒 井】 前回、たくさん人が来てやる側が疲弊しているという話がありましょね。この辺の課題をどうするのかを考えていかなければいけないと思いました。

【本 間】 前回の実行委員会でどれだけの収容があればいいのかということで、一番初めが380名、480名、570名と少しずつ増えてきているのですが、やはりボランティアの数もそうなのですが、やっていく側としてなかなか気持ちを保てないところがあると思うので、人数をどんどん増やそうというのは止めて、やる側も楽しみながら、来る方にも楽しんでもらうという考えになったと思うので、そういった方向で行こうかと思います。

【荒 井】 これらのイベントで必要なのは目標のマネジメントですよね。何のためにやって、どうすればこのイベントに参加して良かったと思ってもらえるかを体制にしていけば、1000人を超えようとみんなが良かったとなれる。イベント成功の構図をセッティングしてみんながそれに向かっていくのだと思って、終わったときに、できたとかできなかったけど私はこれが得られたという風になると納得感のある終わり方ができるのかな。はまなす広場はいいですよ、より広く石狩浜の魅力を発信するためにと目標を設定して書いてありますから。

最後に、発信できたのか、できなかったのか、発信したら私にとってのメリットはどうだったのか、といったことが出展者にきちんと伝わるようなことを委員会を考えていくことが今後の課題になるかと思います。

【松 島】 維持管理をしていくことがすごく大変なのですよ。雑草防除もそうですし、地元の方たちに参加していただいて、これからは管理をしていこうという話もあるのですが、今の目標設定と同じで持続していくためには、これが何にどう役に立つのかとか、自分達にどういうメリットがあるのかとか、動機付けとしてゴールを位置づけておかないと、新しいことって最初は面白そうだからと参加するのですが、飽きますよね。里山管理でピザを焼いたりしていますけど、みんなピザを食べ飽きている。遊びだけを目標にしていると遊ぶことに疲れてしまい持続しないのですよ。昔は生活するために必要だからやっていたことで、やらなければ生きていけないので持続されて里山という環境が管理されてきたように、これも持続していくためのきちんとした動機付けを設定していかないと非常に難しいと思う。草むしりって大変な作業で、最初はモチベーションを高くやっても、日常的に続くとさすがに疲弊してくるというのはどんなことでも一緒だと思う。なので、地元の方達に参加してもらいながらやっていく上で、地元の方たちが参加していて、これは自分たちにもメリットがあると思ってもらえるような自分達事としていく取り組みが必要かなと思っていて、石狩市で再生園を取り組むと決めたとき、私が想定していたのは、徳島の葉っぱビジネスってありますよね。ご年配の方とかがシソを摘んできて、刺身のツマとかに使うために全国に送り出すというもので、年商3億円ぐらいになっているという話です。要は地元の方たちが葉っぱはお金になるということで、葉っぱを集めることで商売に参加できる、お金が稼げるということですごく元気に働いているのです。ああいう形でハマナスの花弁を摘むためにまずきちんと除草して、花びら摘んで、ですから、今の企業の方が来られて除草も参加してくださいね、その代わり、花を持っていってもいいですよとやっていますが、そこに維持管理する組織みたいなものを地元の方を中心に作っていただいて、そこに維持管理費用あるいは花弁代として、維持管理のメンテナンス費、人件費を支払っていただくという形で一つ段階を置くと地元の方たちも参加することによってお金を稼いでいるという意識も出てくるかも知れない。そういう形で動機付けというものを考えていかなければいけないのかな。モチベーションが高いうちはいいのですが、皆さんいろんなことをされているのでだんだん疲れてきてしまうのが心配です。疲れても代わりの人がいるというほど人は増えていないので、これからは少しそういうことも考えていかなければいけないと思います。

【安 田】 地元の方への声かけは色々考えていかなければ。

【松 島】 そうですね。地元の方に積極的に参加してもらえるような、そして、参加することが自分たちにとって大きな、この環境を守っていくことが自分たちとっても大事なことで、それが収入に直接繋がっていけばいいと思いますし、そういう取り組みみたいなものができたらいいなと考えています。

【荒 井】 僕たちは心理学とかを学んだらいいのかも知れない。人間の動機付けの構造とか基本パターンとかあって、僕たちはあの事例いいよねとか話していますけど、実際に多くのボランティアさんたちを目の前にして、そのように僕らができるかといったら別で、多分、結局説明してしまうと思うのですよね。「皆さん今回はこうでこうでこうします」って。そうしたら向こうは「何だよ、結局お前ら全部決めているのだから」とか「そんな報酬求めていないから」と思うかもしれない。僕も同じことを10年位やってきて上手くいっていない。このメンバーは意識が高くてどうにかしようと思っているから、ここで話すと何か良い雰囲気でも、温度差のあるところに行くと全然違うことというがあるので、このメンバーに必要なのは人を動かす条件とは何かを勉強することだと思いました。

【安 田】 荒井委員は何か勉強されているのですか。

【荒 井】 皆さんメンタリストの Daigo って知っていますか。芸能人です。彼はものすごくわかりやすく重要なのはこの5つみたいなことを言っておりまして、そのくらいであれば、僕らがやりやすい範疇ですよ。しっかり勉強するのではなく、バツと読んでこれ面白そうというのをとりあえずここで試してみようと言って、週末集まるメンバーにやってみるみたいな感じです。やってみるのが重要だと思いますし、多少失敗しても許してもらえるメンバーだと思うのですよね。やりながらやっていく早道かなと思っています。実は僕らが大雪山国立公園でこの辺を参考にしながらやっている声かけとかがあるんですけど、とてもシンプルです。効果は分かりづらいです。ただ、失敗をしていないのですよ。思うようには動いてはくれないのですけれども、何となく前より注意する回数が減ったとか、スタッフのストレスが減ったとか、最近あまりこういう苦情が来なくなったというのを実感しています。

【松 島】 同じことでも言い方によって受け取り方が変わってくるというのはあります

よね。

【安 田】 少しでもスッと訴えかけられるような言葉が発せられればいいですね。

【本 間】 本町地区の高齢の方に協力いただくのであれば、その方が若いときの浜のイメージとかを聞いておいて「そういう景観にしたいから協力してくれないか」という言い方もあると思うのですよね。やはり工夫かなと思いますね。

【松 島】 北條委員や石山委員その辺お分かりだと思いますけど、実際、地元の方は多分そんなに浜にいいイメージを持っていないのではないかな。昔から見てみると、分からないのですよね。他と比較したりしていないから。

【原 田】 今はあそび一ちが堤防みたいになっているけれど、私達が若いときは石狩浜に来たらすぐに砂浜であれが無かったような気がします。あれは自然にできたのか、作ったのか。

【本 間】 砂を押したらしいです。海水浴場のところだけでその両脇はそうでもないじゃないですか。なので、センターがあるようなところなどの砂を押したのではないかと思います。

【松 島】 マウニのところの砂丘も１階から海が見えていたのですが、砂丘が大きくなって見えなくなったというのですよね。

【原 田】 そこも寄せたのですか。

【松 島】 自然に溜まったのですかね。

【本 間】 海水浴場は違いますよね、あそこの高さはちょっと不自然。

【原 田】 去年の１０月の末に JICA の人達が来たときにあそび一ちに行ったのですよ。何箇所か入って行く所がありますよね。そこが砂でかなり埋まっていて、それを越えていったのです。昔みたいに着いたらすぐに海が見えていたほうが良かった。

【本 間】 そういうふうに砂が溜まるということは、もっと低いときは駐車場のところも結構溜まったのではないと思う。去年もセンターの入口にも結構砂が溜ま

ったのです、風も強かったのです。なので、そういうものが重なって駐車場も維持しなくてはいけないので、砂を押したのではないかなと思います。

【荒 井】 今、ちょっと面白い現象が起こっていて、最初に「前はこうだったのですよね」と言ったところに「あー、そういえば」となっている。僕等は新しい組織を作ってこういう風にやっていこうと未来の計画を立てて共有し多くの人に理解してもらって支援を募ろうとしているじゃないですか。でも、未来の共有って難しいのですよね、まだ来ないからみんな勝手なことを思うもの。いいねと言ってやっていくと、いやいやこうだよとなる。つまり、総論 OK 各論ちょっと問題ありみたいな。今起こっている現象は、過去に起こったことがすごく共有されていて、「あー、1階から見えなくなったね」みたいにすごく盛り上がっているじゃないですか。だから、僕らは最近、懐かしい未来をどう描くかというのを意識しているのです。過去を共有して、「あれは良かった、これは良かった、その良かったことがなくなっているから、ぜひやっていこうよ」という構造にすると、みんなが自分の経験から言葉を発してくれるのです。共有された過去だから、間違いなく事実としてあったことだから自信を持っておっしゃる。未来だとできるか分からないから発言しにくいし、自分も分からないから怖い。

僕等は今、大沼でスタッフが道産子ミュゼ、道産子の博物館を作ろうとしている。行動展示、実際にそこで、馬で木を切り出して搬出した馬搬とかあった北海道の文化。もう無いけど、それを文化としてこれからも残そうというときに、馬が来たら、みんな集まってきて「俺も高校のときまでずっとこうやっていたのだよ」といってすごく盛り上がるのですよ。なるほど、みんな過去は簡単に共有できるのだなと思って、それを文化として戻したいわけですよ。ここも同じようになっていて欲しい。

【松 島】 ハマナスも昔は皆さん摘んで本州の方の香水会社に売りに行っていたと誰に聞いてもそういうことをおっしゃる。小遣い稼ぎにハマナスの花を採っていた。それを多分思い浮かべることができる。なので、そういうのがまさに懐かしい未来ですね。皆さんに集まってもらって懐かしい未来を語っていただきたい。他にはよろしいでしょうか。

それでは、次の議題に移りたいと思います。石狩浜の環境保全について事務局の方からお願いします。

3. 石狩浜の環境保全について

【事務局】 （資料3の説明）

【松 島】 ありがとうございました。ただいまのご説明についてご意見やご質問ございましたら、よろしくお願いします。

【原 田】 海岸管理者とは道ですか。

【本 間】 道です。

【松 島】 海岸管理者というのは北海道で、市は杭を打ったりするときに道から許可をもらって打つことができる。

【荒 井】 平成27年の車両侵入0件ってすごいですね。

【本 間】 弁天、親船地区、ちょうど海水浴場の両脇なのでそこはほとんど入ってこないという状況ですね。良識があるというか、啓発活動も行っていますし、テレビで報道もされているので、三線浜のほうも昔と比べたら大分バギー車とかも減ってきているという話も聞いている。その影響もあって、あえて人がたくさんいるところに入ってくることは無いかなと思います。ただ、河口地区の方はバギー車が堤防側から入ったとかあるので、それもどうかと思うんですけど。

【荒 井】 例えば今後、三線浜を撤去すると、バギー車の方はどこへ行くのでしょうかね。

【安 田】 銭函方面か。

【本 間】 新川の河口の方に行っていると聞きました。どこかを締め出せば他のどこかに行くということになる。

【荒 井】 僕たちは、国立公園は利用者による管理、利用者が管理しようとしているのです。そして管理コストを下げようという作戦です。今までは、利用者が「なんで環境省がこの木道を整備しないのだ」とずっと怒っているのですよ。環境省は「利用者がちゃんと歩かなくてゴミ捨てるし写真を取るのが分かるから立入禁止にします」としか出来なくなっちゃって。結局、お互いに良くないみたいになってしまう。利用者が管理すればいいかなという観点だと、ここのバギーの利用者は良く思っていない。もしかしたら、バギーコースを走りたくない人達が来ているということを考えなければいけない。バギー屋さんに相談してみるとか、そういう気持ちを持っている人達なのだなと。もっと大きな仲間を

得ていくためには、そういう姿勢でいることだと思った。

【本 間】 三線浜側の石狩湾新港の区域なんですけど、（管理組合が）港湾の計画の中で東港地区東側の利用計画を考えている、一昨年までそういう会議があったんですけど、そこをレジャー利用という形で計画を立てているようなのです。そのエリアはバギー車もいいですよというかたちにして、海水浴場、保護地区については一切には入らないで下さいときちんと区分けをすれば問題ないのかなと個人的には思っていて、その会議でも話はしていたのですけれど、きちんと住み分けをすればいいし、ただ保護地区だからといって、締め出してしまうと別の場所で問題が起きるだけなので、きちんと同時並行でいけば上手くいくのかなと思っているのですが、簡単にはいかないのかなと思います。

【荒 井】 時間はかかるけど、そういう姿勢でいることが多くの利用者にはいろんなパターンがありますからいいと思います。僕たち、1回冬のオコタンペ湖、支笏湖の特別保護地区でスノーシューで渡る秘境ツアーをやったら、国有林だから入ったら駄目だと言われた。確かにと思った一方で、そこを禁止というと北海道の冬山登山を全部否定することになる。これは大事なことで両方に良くないなということで、そこで「禁止令としては出さないで下さい。僕たちもオコタンペ湖を歩くのは自粛します」としたのです。あれも確かに多くの人が湖の中を歩いてゴミを置いていって透明度が春先に駄目になったら冬山は登山道以外スキーをしてはいけませんというルールを出さざるを得なくなってしまいますよね。みたいな議論がありました。

【松 島】 東側というのはこの地図の一番左側ですね。この縦の線からこっち側、西側ですね。ここは港を作ったことによって、砂がどんどん溜まって新しく砂浜が大きくなって出来たところなので、比較的影響が少ないのではないかなということとここにバギー利用などを集中させたらどうかという案もあります。ただ、バギーに関しては組織化されていないというのが大きな問題で、販売店等でグループやチームみたいなものがあれば比較的話を通しやすいのですが、基本的に個人利用が多く、なかなか話が広がっていかないというところがひとつ。実際、道内にはバギーのコースがいくつか設定されているのですが、そういうところに行きたがらない、というのも大きな問題としてありまして、ここで締め出してもまたどこかに行くのだらうなというのがあるので、そこをきちんと踏まえながらやらないといけない。石狩は守られるから銭函は小樽がやらないのであれば別にいいというスタンスもどうかと思いますので、広い視野で全体的に見て最終的に環境を持続しながら、バギーの人達も柵の補修に参加

させ、利用者自身も管理に参加していくと非常に重要な視点だと思います。例えば、金銭的なサポートでもいいですし、労力として実際に柵を補修するのにも参加してもらい、というやり方をこれからやっていければいいなと思います。

【安 田】 東港の区域でバギー車の走行スペースを整備してもらうのが解決も早いのかなと思います。

【松 島】 案としてはありますが、どうなるのかですかね。事故のときの管理責任とかの管理上の問題が大きいのですか。

【本 間】 そもそも計画はしているのですが、個人的な感想として実現は難しいと感じている。港湾の開発のひとつの位置づけというか産業だけではなくレクリエーションも考えていますよという程度のもなのではないかなという感覚です。あくまでも個人的な見解なのでなんともいえませんが、本当にその計画を上手く進めてもらえれば住み分けがきちんとできるので、植生域の保全というのは本当に有効になるのではないかなと思っている。残念ながら今年度はその会議自体も開催されていないので状況は分かりません。

【荒 井】 ニセコのバックカントリースキーが良い例ですね。いくら行政や管理者が「雪崩が起きるから入るな」と言ったところで、みんな入りたいわけですよ。だから逆にスキーヤーたちが使わせてもらうためにちゃんと管理しようとやっている。バギーの人達が組織的ではないのが課題だというのが大きな問題なのでしょうけど、そういう風に考えていく問題なのかもしれない。自分達が自然の中でバギーを乗るためには上手く周りとうり取りして管理できるような主体にならなければ駄目なのだなというのをどう思ってもらえるか。それこそ、向こうに動いてもらう構造をどう作るかみたいな話なのかもしれないですね。

【安 田】 避けては通れないですね

【松 島】 15年以上前から東埠頭に集めたらどうかという話はあったのですが、結局全然動いていないですね。まず、認識に大きな違いがあって管理者の中では海岸の砂丘や植生が大事だというのが、まだあまり認識されていないのではないかなというのが、個人的な感想です。話を聞いていると、なんであれを守らなければいけないのという感じ。海岸管理者は基本的には侵食等から国土を守るために護岸を設置したりするもので、目的が変わって本当は環境保全とか利用調整とかも考えなければならないのですが、まだそこまで調整されていない。

【安 田】 砂丘は天然の防潮堤ではないですか。

【松 島】 そうなのですが、それについては土木の分野では全然認められていない。だから、東日本（震災）のときも結局、防潮堤をコンクリートで作るとここまでは大丈夫と数値化できるけれど、砂丘の効果は数値化できないので、土木構造物を作る立場からするとなかなか取り入れられない。土木学会でも色々な指針みたいなものとか提言みたいなものも出しているのですが、一言も砂丘とかには触れていないですね。残念ながらそれが現状ですね。

【本 間】 グリーンインフラの話が出てきていると思うのですが、考えが変わらないのですか。

【松 島】 まだまだですね。1月に土木学会の方達とお話しする機会があったのですが、土木学会で防潮堤を下げた方がいいのではないかと提言をしている人達なのですが、その中でもやっぱりそれを砂丘に置き換えることは全く考えられていない。いかに耐久性のある構造物を作って、なるべく環境にインパクトを与えないように。できても堤防の上に植物を乗せるという議論まででそれを砂丘に置き換えるという議論にはなっていないですね。

【安 田】 砂というのは波のエネルギーを吸収しますよね。けれど、硬いものを置いたら反射するというか力が削減されずにいってしまう。新川の河口では波の勢いが減衰されないから、上流側の砂丘が削れているという現象が起きているのですよ。そんなの分かるだろと言いたくなるのですが。

【松 島】 今、土木でやっている取り組みとしては全て穴が開いているのですよね。今まではコンクリートの壁だったところを、たくさん穴が開いていてそこに浸透していく。波がぶつかって、崩れて、その穴に入っていくことでどんどん勢いが減衰するよう構造的に対応しようとしている。砂浜も、砂ってすごくもろいのですが、浸透性があるからある程度波が上がってくると浸透して力が弱くなっていく。それを人工構造物で再現しようとしている。耐久性を持ちつつ力を減衰できるように。スタート地点が違いすぎてなかなか。なので、今問題が起きていない石狩は侵食が起きてても誰も困らないということなので、そこにお金は使えないというのが多くの管理者側の考えだと思います。それよりも侵食が起こって問題になっているところにお金を使って対応している。

【本 間】 問題が起きないからあのまま残ったのですね。

【松 島】 そうですね。ある意味それはラッキーだった。人があまりいなかったことが。だから、こちらからどんどん発信していかないと。

【安 田】 防げないですね。こちら側でも、組織化して良い方向に持っていくような動きを作っていければいいのでしょうね。

【松 島】 市民が声を上げて市民の総意です、と大多数の人がそう考えているという風潮が出来ればきっとその辺はもう少し進んでいくのではないかと思う。

【本 間】 多少、影響があったとしてもこの自然の砂丘が大事だということをですね。

【松 島】 多分、多くの市民は砂丘ということすら知らないというのが現状なので、広く知ってもらうことが大きな課題ではないかな。「あー、大事なのではないの」くらいには思ってもらえるようにしていかなければいけないと思います。ここでは共通認識で大事だというのはわかっているけどここを一步出ると違う。家で妻に話しても通じません。これが世間なのだなと思いました。あと、パトウオークをしているところを保護区に指定する方向で進めていただけるということですね。

【本 間】 管理者も含めた連絡会議というのが、机上でしか話していなかったのもう一度原点に返って、現地を見ながら保全に向けた協議をしていこうかと思えます。そのときにはファンクラブさんにも同席していただいて、実際に説明していただくような形をとりたいと考えております。色々な思いがあると思いますが、よろしくお願いします。

【松 島】 ファンクラブさんは完全に公共的な活動をされていますね。サポートしていきたいと思えます。他にはよろしいでしょうか。

では、次の議題に進みたいと思えます。4 番目ですね、石狩浜海浜植物保護センターの管理運営について、資料 4 の説明を事務局のほうからお願いします。

4. 石狩浜海浜植物保護センターの管理運営について

【事務局】 （資料 4 の説明）

【松 島】 ありがとうございます。この運営方針は石狩市で定めて、この方針に沿って受託していただくのですか。

【本 間】 受託者がこれを定めて実際に具体的な活動計画、資料 1 につけた事業計画書のようなものを作ってもらって、それに対して、市が（活動資金を）交付しますよという形をとろうかなと考えております。

【松 島】 今回提出していただいた運営方針はいしかり海辺ファンクラブさんが当面運営していく上で、こういう方針で運営していきますということについて、我々がアドバイスをするということですね。では、今の運営方針について、ご意見やご質問等ございましたらよろしくお願いいたします。

【荒 井】 FC 事業というのは。

【石 山】 ファンクラブ事業です。

【荒 井】 組織の運営体制としては指定管理を受けた組織の有給スタッフと多くのボランティアさんで運営していきたいという考えですね。そのボランティアさんはファンクラブの会員さんですか。

【石 山】 ボランティアはファンクラブだけではなく、既存でセンターのボランティアもいますし、センターに限らず石狩海岸で活動している個人も団体含めた全部のボランティアさんともう少し広くしていこうかなと思います。

【荒 井】 多分、運営する側、有給スタッフの心配事はこんなにたくさんの事業ができるのだろうか、自分達だけでは全部はできないから多くの人に助けてもらわないと、でも、みんな本当に助けてくれるのだろうか、イベントの前は運営スタッフだけやるのではないだろうか、本当に 1 年間できるだろうか。みたいなことを僕だったら思うのだろうなと思っております。それで、よく考えるのは、とりあえず、来年をどう乗り切れるか、誰と一緒に乗り切れるかなのですよね。不特定多数の 100 人のボランティアさんと乗り切れるのか、有給スタッフと 10 人の精鋭がいれば乗り切れるのか。僕は後者だと思う。もし、僕が有給スタッフだったら、その 10 人にロックオンします。その 10 人に満足して楽しんでもらって、その 10 人が 10 人呼んでくれると 100 人になるみたいな風に考えられるとちょっと気持ちが楽かなと。つまり、有給スタッフが本当に困ったときに「申し訳ないけど、誰々さん手伝ってくれないだろうか」と頼める人。多分もう既にいると思います、今も毎週来てくれる方がそれに近い。センターの第 1 顧客はその 10 人だと思って、サービスします。その人達がお金ももらわないのにこのセンターやこの浜に来てくれるのだろうというのをどんどん満

たしてお互いにこの浜を守ろうという仲間になっていく。みたいなことが最初に着手することだと思っております。具体的に言うとその紙にいっぱい事業があるけど、センター施設での主なものに展示整備事業、展示作り事業とあるではないですか。今だってみんな手作りで色々と展示があって、多分皆さんでわいわい作っている感じですよ。あと、もう1個見ているのは、真ん中ぐらいに館内ちびっ子とか、地元のみなさん来てくださいとか、館内案内事業とか俗に言う普通の館内の活動ですね。もう一つが下のほうの調査で外来生物は急ぎますよね、あと、パトロールもそうですよね。この辺も愛のある方が時々嫌な思いをしながらやっている。でも、来て下さっている。本当は結構やりやすい事業なのかなと思っております。今、挙げた3つの事業には特徴があって、一番上、展示のやつですね、ボランティアの仕事としては、対展示の仕事になります。対人ではないので、コミュニケーションが苦手でも手先が器用であれば色々やってくれて、良い展示を作ってくれる。下の外来生物の駆除、自然の調査も比較的対自然なので、コミュニケーションが苦手でも自然が好きならできる。真ん中の館内対応は、対人サービスなので、人との会話が得意な人とか。実は、僕、旭岳では明確に分けて、コミュニケーション好きな人は人前でお客さんの案内をさせて、登山道整備とかすごく緻密にやるマニアなスタッフもいて、その人達は人と話すのが苦手なので、ひたすら石組みしています。でも、すごく成果が挙げられているのですよ。そのマニアな技術に惹かれる学生ボランティアが10人ぐらいいる。ほら10人ボランティアが付いているでしょ。うちのスタッフは8人なんですけど年間300人ぐらいボランティアを回している。現場にいるのは3人です。つまり、有給スタッフが例えば、展示担当、接客担当、自然調査担当と分かれて、そこに上手くボランティアさんが付けるようにコアとするロックオンしたい方。

【石 山】 分かれたほうがやりやすいですか。

【荒 井】 できるのであれば、横断的にやった方が良いです。できないのであれば、まず、私は最低でも展示に成果を挙げると考えた方が集中しやすいですよ。展示もやらなければいけないし、明日は子供のプログラムだから準備しなければいけないから展示はいいわ。とやっていたら多分展示は冬まで出来ないはず。そこを無理しないでやるなら、今年はその連絡調整、団体活動情報を挙げるとかはいいかと、この3つは成果を挙げたい。成果を挙げるところには有給スタッフを配置して、その有給スタッフは自分で5人の精鋭を集める。そのときは誰でもいいのではなく、得意分野、不得意分野を理解して、やりたいのであれば不得意でもいいですけど、集めていく。そのチームでやろうね。この1

年で挙げる成果は展示をこうすることとか、「なんか保護センターへ行ったら、こんな風になっちゃって楽しかったよ」と多くの子供に言ってもらふこととか目標を作っていくとやっている側もほめられて気持ちいいと思っていて、僕はこんなにいっぱいあったら辛いなと思っていました。具体的な運営体制の話になってしまいましたが、やることがリストアップされてわっとなったときは、今みたいなやり方が等身大でいいと思う。ポイントは、不特定多数に喜んでもらうことではなくて、ここに日々来てくれるこの人達が第1顧客でその顧客の顧客満足度を上げることが実は、僕たちの仲間だったみたいな。この熱い思いを持ったメンバーで、じゃあ来年はハマナスのイベントでこれやっ払いこう。来場者300人に対してサービスしようというといいよねと思いました。

【本 間】 ここに書いてあること全部を100%でやりますということにはならないと思いますので、今、荒井委員が言われたとおり、一つ一つの事業で目標を持ちながらやるのは良いと思います。

【石 山】 運営方針と目的とかやらなければならないことを網羅して出しましたけど、運営委員会にかけるときに初年度はここに力を入れるということ、あとは、絶対にやらなければいけない項目はやった上で確認いただいたらいいのですね。

【松 島】 そして、会議で今まで出来ていなかったところをやるにはこっちをこうしてみようとかすればいいと思います。

【本 間】 毎年、伊井委員が言っているように、PDCA でまわしていただければいいかなと思います。今度皆さんで東川に見学に行きますか。

【荒 井】 ぜひ、来てください。うちのスタッフを見たらこんな人がやっている、と思うぐらいコミュニケーション取れない人もいます。日当6000円で5ヶ月間だけの仕事なのです。言葉を選ばずに言うと、普通に就職が出来なかった人が山や自然が好きで夏だけでもこれでいいかなという人達なのです。なので、あまり接客とかは得意ではないのです。堅物だしこだわるところこだわるし、だけど、5、6年来ているスタッフもいますし、そのスタッフも今や学生を連れてリーダーになっていて、冬はそういうものを見た地元のスキー場が雇ってくれているので、通年働いている。あと、新しい事業をやって1年目の重要なことが委託を出した側が最低ラインを確認しておくといいと思う。せめて来場者数は1000人を超えてくれとか、事故を起こさずにやるのが第一優先なのだから知っておくのがすごく重要で、これをまず駄目と言われな

い範囲で作っておかないと、周りが見て結局どうなの、みたいになってよくない。

【本 間】 そこは重要ですよ。委託して今までより下がるというのはあまりよくない、
というかありえないと思いますが、見せ方だと思うのですが、そんなに（最低ラインの）ハードルを上げる考えはないです。

【荒 井】 僕らがやっていて分かりやすいのは、子ども達が足を運ぶ回数を増やすことはいいなと思っている。学校で来たら2、3人は楽しかったからと言って、休みの日にお母さんたちと自分で来てくれるので。その形をどう作るかですね。

【本 間】 現在も石狩小学校の児童が寄ってくれるとかあるみたいなのですよ。そこを
がっちり掴むのは重要かと思います。

【荒 井】 意外とそれでリピーターが増えますよ。僕等、キトウシ森林公園物産センターではそれですごく入場者数が増えて、同じ子がずっと来ているのですけどね。
子供を連れて来て遊ばせておけばお母さんもゆっくりできると噂が広がって。
観光客向けの施設だったのですが、市民が使ってくれているのはすごく印象に残っています。

【松 島】 東川町は色々な意味で頑張っている町で、小学校と地域交流センターが同じ
建物に新しく建て替えられたのですね。子ども達からお年寄りまで色々な世代
が幅広く交流できる施設が隣接ではなく中で繋がっているのです。そして、横
には田んぼがあって。

【荒 井】 あの田んぼの運営管理が大変なのですよ。

【松 島】 それでもやられているのは素晴らしい。雑草取りではないですけど、稲刈り
は収穫できるまでのプロセスが大事なのですよ。何でもそうなのですが、
収穫体験とかありますけど、最初、稲の植え付けだけして、あとは周りの大人
が作業、管理してくれて、収穫だけする。収穫の喜びもいいのですが、メン
テナンスの大変さも分かってもらった上で収穫してもらうのが一番いい。なの
で、保護センターもハマナスの収穫をするだけではなく、雑草取りなどのプロ
セスをしないと花も咲きませんよ、というのをきちんと理解してもらえよう
なプログラムの作り方が必要かなと思います。

【北 條】 イベント等をこれだけ行うというのはすごくいいことなのですが、イベントには1回の大切さがあると思うのですよね。それしか来られないご家族もいらっしゃると思います。リピーターになることが良いのでしょうけど、小さいお子様は一人で来るというのは難しい。1回しか来たことがないけれど、そのイベントの成功内容によっては口コミでどんどん広がっていくこともあると思うのですよ。なので、イベント一つ一つを大切にこなしていくことがまずひとつなのかなと思うのです。ただ、やるというのではなくて、内容も見直していかなければならない、時代に合わせたものになっていかなければいけないということも頭に入れ、色々なことを試しながらやっていき、その世代に合わせたものをイベントに取り入れていくという頭を柔軟にしてやっていかなければいけないと思う。私は、クラフト教室などの子供を中心としたイベントのボランティアに参加させてもらっているのですが、子ども達って、出来た、と目に見えて成果が出るとすごくうれしくて、次に取り組もうという力がすごく出てくると思うのですよね。もちろんお母さんも一緒に来ているけれどもこういう施設があることを知らなくて、まだまだ認知不足な面はある。でも、学校のお便りで知ったという方も出てきている。その親子の口コミでどんどん広がっていくということもあるので、そのときに、子ども達に接する側の私も子ども達が楽しんでもくれる話し方、アクションというのはとても必要だと思ったのですよね。イベントというのはひとつの思い出なので、私自身も勉強しなければいけないなと改めて思った。そうすると子ども達も喜ぶし、親としても子供が喜んでいる様子を見ているとうれしい。そうしたら、また来年も来ようとかお友達に話してみようとか、SNSとか保護センターはこういうことをやっているという感じで発信してってもらえると思うのですよね。そのためには、スタッフが楽しそうにしている雰囲気作りというのが非常に大切だと思うのですよね。保護センターの照明設備を交換して明るくなるとか、小さなことかもしれないですけど、その小さなことの積み重ねが情報発信によってどんどん広がっていくと思うのですよね。イベントやりこなしていく1回の大切さというのを改めて思って、その内容、そして接する私達側がもうちょっと接し方に関してもう少し考えていかなければいけないのかなと思った。

【石 山】 そういう定期的なものが入っていてもいいかも知れないですね。ここにボランティアの。

【北 條】 私の子どもが小学生のときに無料であれだけ施設的にも浜でも遊べるし、ぬり絵もできてという感じで、気軽に行っていたのですよね。例えば、石狩小学校で送り迎えをしていたので子ども達の授業時間のずれで待っているときとかに

1時間くらいだったら家に帰るよりこの辺で遊ぼうよと言って浜で遊んでいた、保護センターに寄らせてもらっていたり、日常で使っていたのですね。そのうちにここでボランティアがあると知って、特別な知識がないので自分のできる範囲でしかないのですけれども、子どもを中心としたイベントもあるということで、それなら参加してみようと思い、参加するようになった。そういう風になっていくための気軽に来てもらえる雰囲気はどうなのかなといつも悩んでいた。結局そのイベントはそのときそのときは成功しているか分からないですけど、とりあえず、笑顔で帰って行ってくれと、自分も達成感あって、やってよかったなと思うことなので、花の名前の知識や自然環境保護の知識も当然あった方がいいのですけど、知識だけではなくコミュニケーションが取れる。先ほどの得意分野のお話ではないですけど、専門的な分野を知っている方がいて、説明をして下さる。それを楽しく明るく聴ける雰囲気にする人も大切なかなと思うのですよね。だから、なんでもかんでもプログラムを組んで皆さんで共有していくのはとても大変なことだと思うのですけど、何かの機会で特別難しい授業とかはしなくていいと思うのですけど、そういう人材育成というのは必要なかな。子ども達には次世代の中心でこの活動を見守ってってくれる人間を育てなくてはいけないと思っているので、それであれば、小さいうちから遊びの中で関わってもら。それで、関わりやすくするにはどうしたらいいかというのを改めて考えていくのもまたひとつかなと思うのですよね。あまり決め過ぎてしまうと、義務感が出てきてしまって大変かと思うのですよね。なので、何かの機会で構わないと思うのですけど、知識はなくてもコミュニケーションを取れて場を盛り上げてくれるような人も子ども向けのイベント等をやっていく上では、特に必要なかなと思うのですよね。

【松 島】 ありがとうございます。原田委員、ガイドボランティアをされていて、そういうのは。

【原 田】 今、北條委員がおっしゃった中で、スタッフも楽しむという言葉があったのですが、私達もガイドが楽しくてこのボランティアガイドをやっているのですけど、ガイドをしているときに自分が楽しまなければ来たお客さんに対してもその良さや楽しさが通じないと思うので、自分も楽しんでやっている。だから、今、北條委員がおっしゃったようにスタッフも楽しんでやれば、お客さんにも笑顔とかが必要だと思う。笑顔は共通のコミュニケーションではないかと思って、そうすると子どもさんって結構人を見る目があるから、この人は恐い人かやさしい人かとか自分の見方かとかが何となく分かると思うのですよね。だから、笑顔で接する、自分も楽しむということにすごく共感しました。先ほ

ど、荒井委員がおっしゃった得意分野をというのにも通じる、好きなことをやっているとその人からその楽しさとかを感じとれるのではないかなと思いました。

【松 島】 自分の興味のないことでも嬉々として話してもらったら、楽しいのだなと興味を持ちますよね。他には何か、よろしいでしょうか。

では、その他ですね。事務局の方からお願いします。

5. その他

【事務局】 来年度の保護センターの運営につきましては、市直営の最後の年になります。

私事になりますけれども、3年目ということで、引続きセンター長をやらせていただきます。私と川村、それに新人を加え3人でセンターを運営していくことになります。また、センターの事業普及員につきましては、2人体制で同じなのですが、内1人を委託の準備ということで、海辺ファンクラブさんの石山委員と後ろにおります、石井さん、安田さんの3人で交代しながら実施するというようになっております。そのような形で運営をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それともうひとつ、今年度、環境省の ESD 環境教育プログラム実証事業ということで厚田小学校と双葉小学校の2校でモデル事業を行い、双葉小学校については、石狩浜の保全について勉強していただいた。来年度は環境省の事業が決まっていないが、ESD の推進ということで、保護センターを拠点に事業の展開をしたいという提案をいただいております。実際に何をやるかというセンターでの自然ふれあい学習のプログラムという既存のプログラムを ESD の視点に立ったプログラムに拡充しながら、学校や団体の学習支援を出来ないかなと考えているようです。それについては、市も協力をしていこうと思っておりますので、その情報が分かりしだい、運営委員会に報告させていただきたいと思っております。

それと、原田委員が今期で任期満了ということで最後に一言お願いしたいと思います。

【原 田】 運営委員会に参加させていただいて、あまりよく内容も知らないで引き受けたのですが、最初の年に少し勉強をしなければと思いファンクラブさんの自然塾に入らせていただき、昆虫やホウネンエビ、クモなど花以外のものも色々勉強をさせていただいたのですよね。すごく自分のためにもなりましたし、新鮮でした。このような機会をいただきまして、自分自身のためになったと思い

ます。これからもサポーターにはなっておりますので、自分の状況が許せる限り、少しでもお手伝いしたいと思います。後任にはボランティアガイドの高瀬がぜひと希望しておりますので、よろしくお願いいたします。2年間どうもありがとうございました。

【松 島】 ありがとうございます。本当に2年間お疲れ様でした。これで終わりにならないように、ぜひ、よろしくお願いいたします。

これで今年度第3回、そして、任期2年の最後ということで、用意された議題に関しては全て終了いたしました。事務局にお返しいたします。

【事務局】 皆さん長時間に渡りありがとうございました。当運営委員会は任期が2年ということで会長からお話があったとおり、今月末で終了ということで本当にありがとうございました。原田委員には引続き関わっていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。他の委員につきましては引続き来期も委員の就任をお願いしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、これで第3回運営委員会を終了とさせていただきます。ありがとうございました。

議事録確認しました。

平成28年4月1日

石狩浜海浜植物保護センター

運営委員会会長 松島 肇